

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2817 号

Characterization of tumors of older breast cancer patients that de novo resistance to endocrine therapy

内分泌療法に対し de novo 耐性を示す高齢者乳癌の特徴

石塚 由美子 (いしづか ゆみこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、小径化ビーズを用いた顆粒球・単球吸着療法により、顆粒球・単球が吸着されるだけでなく、大腸の炎症部位に直接集積して病態を改善させる IL-10 産生 B 細胞の Newly formed B cells が増加し、炎症性腸疾患ラットの病態を改善させる可能性があることを示した。

【新規性、創造性】 本論文は、顆粒球・単球等の炎症細胞のみならず、他免疫担当細胞に与える影響を評価するという観点で新規性がある。顆粒球単球吸着療法の免疫担当細胞に与える影響を同定することは、同細胞を対象とした治療法の確立という学術的創造性を満たす。

【方法・研究倫理】 本論文における、実験では、動物愛護管理法「3R の理念」を遵守し、所属研究機関に設置された動物実験委員会による自主規制のもとで研究を実施がされている。また、適切な統計解析の下、客観的評価がされている。

【学術的意義】 本論文は、元々、副作用が少ない治療法である顆粒球・単球吸着療法のより症状軽減効果のある新規治療が確立することで患者の予後改善という極めて大きな社会貢献と社会的波及性を満たし得るものである。

【考察・今後の発展】 本論文で使用された 300 μ m 径の酢酸セルロースビーズを用いた吸着療法が B 細胞に与える副次的な影響は炎症性腸疾患に対し有益に働き、より重度の炎症性腸疾患に対しても効果を示す可能性がある。また、制御性 B 細胞の機能異常は炎症性腸疾患に留まらない。様々な疾患に対してより良い医療を提供しうる研究として発展する。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。